

今年の十五夜は9月21日でしたが、皆さんお月見はされましたか？満月に見える模様を、日本人は古くから「ウサギが杵をもって餅つきをしている姿」と見立ててきたようです。

この見え方は、文化の影響を受けていて、時代によって変わる部分があれば、場所によっても変わり、海外では「ロバ」「吠えるライオン」「ワニ」「老婆」などに見える国もあるようです。

月の模様のような曖昧な形は、経験や知識や文化によって、見え方が異なってきます。



この考えに立つ心理テストの手法に、投影法があります。偶然に出来たインクのシミの見方に表れた個人差を手掛かりに、その人の特徴をつかもうとするテストがロールシャッハテストです。他にも様々なテストがあります。

例えばリンゴを見た場合、リンゴ特有の形や色からリンゴだと知覚されますが、見る対象が曖昧な形や色をしている場合、私たちの脳が「それが何か」を判断する過程において、私たちの心のありようが反映される余地があります。

*「あばたもエクボ」：自分が好きになった相手であれば、あばたでさえ、かわいらしいエクボに見えます。



*物事に集中しすぎると、「(木ばかりを見て)森に入って森を見ず」という傾向に陥りがちです。

*どれだけ凶形のグローバルな見方が出来るかの実験で、事前に快(美しい自然)のビデオを見せた方が、中性(棒)や不快(嘲笑場面)のビデオを見せた場合よりもグローバルな見方をしました。

(Fredrickson&Branigan,2005) 心を穏やかにして心地よくなり、ゆとりを持つとグローバルな見方ができるようです。また、そういった理由によるのでしょうか、入浴中に生まれたという世界の歴史に残る有名な発明もあります。

*アメリカで使われているコインの大きさを記憶に基づいて判断させた場合、高い価値のコインほど実物より大きく判断され、その過大判断は、貧しい家庭の子供の方が豊かな家庭の子供よりも顕著だったと報告されています。

(Bruner,J.S., & Goodman,C.C.1947) (Carter,L.F., & Schooler,K.1949)

視覚と同様に、対象があいまいな場合は、聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚にも感じる人の心の状態が反映されたり、他の情報が影響を与えたりします。

*同じお料理をメニューに書く場合、単に「海鮮料理」と書くよりも、「新鮮なイタリアの海鮮料理」と印象的な書き方をした方が、「よりおいしい」という評価がなされたという実験結果があります。(Wansink,B., van Ittersum,K., & Painter, J.E. 2005)



*画面に「が」と発声している人の映像を見せて、それに「ば」という音を重ねて聞かせると、被験者は「ば」とは聞かず、「だ」あるいは「が」と聞いてしまいます。これは音を出す前に空気を止める位置が類似していることによる曖昧さのために、視覚像に騙されて間違えて聞いてしまう錯覚です。(McGurk effect「マガーク効果」という錯覚)



このように、知覚は曖昧な対象の場合、それを見たり感じたりする人の動機・情動・環境・文化・性格、またはその場の条件などの影響を受け、異なってきます。これは、知覚の「歪み」ともとられますが、情報不足を巧みに補うことのできる、我々の脳のすばらしさでもあります。また、「曖昧」も決して悪くなく、特に日本では古来「曖昧」を好む傾向が、浮世絵・俳句・能などの美術・芸術においても、人間関係においても顕著です。曖昧な対象や場面は私たちの生活の上で、わりと多くみられます。判断を間違わないように注意することも大切ですが、上手に活用したり、時と場合によっては楽しんでみてくださいね。

カウンセリングセンターは、皆さんが学生生活の中で抱く悩みをカウンセラーと話し合い、自らの力で解決を見出していくところです。一人で解決が難しいと思ったら、ぜひ一度足を運んで下さい。

問合せ先：カウンセリングセンター

場所：10号館3階 TEL:03-3238-3559 受付：9:30~11:30, 13:00~16:30 (月曜日~金曜日)

感染拡大状況を踏まえ、Zoomや電話での相談を優先しています。

